

訪問看護に携わって



内田 由加里

私は、総合病院で三交替の勤務を20年経験し、夫の転勤で東京へ引越し、看護業務を離れることになりました。

憧れだった専業主婦もすぐに飽きてしまい東京都看護協会主催の復職支援研修に申込み訪問看護では、はひとでの研修を受けることになりました。神経疾患やターミナルの患者さんへの訪問を行い先輩看護師の心に寄り添う声かけや傾聴する姿勢をみて共に働きたいと思い、はひとでの勤務を決意しました。

訪問看護に携わって驚いたことは、高齢者の独居の方が多くことです。独居の方の生活を支援していくには、多職種との連携を密にとり、セルフケア能力を高め居心地の良い場を作ること、そして家族との調整を図ることが大切であることを学びました。そして在宅の看取りにおいては、患者様が納得のいく生き方が支えられ、家族介護者が、精一杯のことをしてあげたと思えるように、その時出来ることを共に考え導いてあげることが大切であることも学びました。訪問看護の経験がなくてもeラーニングという訪問看護の通信教育も受けられ少しずつ知識をつけることができます。また、訪問時不安なことがあれば、先輩看護師に連絡しアドバイスをもらうこともできます。子育てをしながらも、短時間の勤務の中で患者様と向き合い、意欲的に関われ日々勉強できる職場に感謝しています。